

医療福祉技術分科会

★第2回福祉技術シンポジウムはおかげさまで無事終了致しました

[開催報告（4～7ページ）](#) を御覧下さい。

工業技術連絡会議・産学官地域技術交流会「第2回福祉技術シンポジウム」

- 主催：
 - 工業技術連絡会議福祉技術部会、財団法人 日本産業技術振興協会
- 共催：
 - 東京都北区
- 後援：
 - 東京都
- 開催日時：
 - 平成12年9月13日（水）9：30～19：30
- 開催場所：
 - 東京都北区「北とぴあ」（JR王子駅北口／南北線王子駅徒歩2分）
 - シンポジウム会場 3階 つつじホール（定員402名）
 - 交流会会場 16階 王子東部サロン展覧の間
- 参加費：
 - シンポジウム参加費 1000円（資料代、全員）
 - 交流会参加費 5000円（交流会参加者）

プログラム：

- 9:30～10:00 開会式
 - [開会挨拶](#)、来賓挨拶、部会長挨拶 →[本PDFの8ページ目](#)に開会挨拶掲載

10:00 一般講演1

- 10:00～10:15 天井走行リフトの動作が利用者にも与える心理的影響
 - ○永田可彦，甲田壽男（機械技術研究所）
- 10:15～10:30 車椅子使用者のパンツパターンについて
 - ○渡辺聡子（山野美容芸術短期大学），岩波君代（東京都福祉機器総合センター）
- 10:30～10:45 障害者の着脱しやすいブラジャーについて
 - ○岩波君代（東京都福祉機器総合センター）

10:45～11:00 休憩

11:00 一般講演2

- 11:00～11:15 生活行動・動作の計測にもとづいた製品設計支援技術
 - ○横井孝志（生命工学工業技術研究所），長瀬浩明（長野県情報技術試験場），土肥亮馬（島根県工業技術センター），佐藤 彰（佐賀県工業技術センター），中島康博（北海道立工業試験場）
- 11:15～11:30 機器開発におけるバーチャルヒューマンの活用
 - ○吉成哲（北海道立工業試験場），大西人史（北海道立林産試験場）
- 11:30～11:45 身体機能の変化に応じられるバリアフリーキッチンの開発
 - ○田村久恵，櫻川智史，佐野禎彦，望月建治，儀光孝夫（静岡工業技術センター），田中伸佳（県商工労働部），長岡敏之（浜松工業技術センター），中野恵美子，横山義昭（静岡大学），上田俊雄（クチーナ），山崎克巳（県車椅子友の会），永井清広（県介護実習・普及センター），田森美穂（静岡済生会総合病院）
- 11:45～12:00 高齢者に配慮した厨房家具 ―電動昇降棚を内蔵した両面ハッチ食器棚―
 - 水野金儀，山本光男，○小谷 勇，森本 健（愛知県工業技術センター）
- 12:00～13:30 ポスター発表（ポスター掲示時間は10:45～16:00）

高齢，障害者の個人対応衣服 ―公設試の新たな挑戦のために―

- ○小野栄一（電子技術総合研究所），柿沼よしえ（埼玉県工業技術センター），半田克美（静岡県デザインセンター），門脇 亙（鳥取県産業技術センター）
- ベッドサイド家具の開発 -第二報-
 - ○大西人史（北海道立林産試験場）、吉成 哲（北海道立工業試験場）
- 高齢者用収納家具の研究開発
 - ○本明子（福岡県工業技術センター）
- 小児進行性筋萎縮症者の在宅生活支援
 - ○河村洋（東京都立産業技術研究所），水柿美恵子（東京都心身障害者福祉センター），中田毅志
- ウレタンフォームの積層構造による床ずれ防止マットの開発
 - ○西村博之，久保田稔，藤田祐史，竹内正俊（福岡県工業技術センター）
- 快適性衣料素材の開発
 - ○守田啓輔（石川県工業試験場）
- 重度障害児の為の既製服をめざして
 - ○高浦義子
- ミミックセンサーを利用した在宅体調測定
 - ○永田可彦，福田修，甲田壽男（機械技術研究所）

13:30～14:30 特別講演

- 「介護保険の福祉用具レンタルの課題」
 - 木之瀬 隆（東京都立保健科学大学）

介護保険は利用者のサービス選択が基本である。しかし、開始まもない介護保険はサービス選択の余地は少なく、福祉用具レンタルも同様に選択する情報が少ない。それに関わる福祉現場の状況や福祉用具レンタルの選択・適合に関するシステム作りの試みについて述べる。

14:30～14:45 休憩

14:45 一般講演3

- 14:45～15:05 東京都北区福祉産業研究会の活動について
 - ○対馬玄（北区産業振興課），伊藤清武（都市産業研究所）
- 15:05～15:20 東京都健康福祉研究会50社にみる開発の実際 第2報
 - ○岡野宏，河村洋（東京都立産業技術研究所）
- 15:20～15:35 高齢者の上肢動作特性についての533人計測結果について
 - ○渡辺寿恵，吉岡松太郎，狩屋嘉弘，畠中順子（人間生活工学研究センター）
- 15:35～15:50 視覚障害者用色識別装置の開発
 - ○前川満良，高橋哲郎，梶井紀孝（石川県工業試験場），一二三吉勝，橋爪慎哉（北計工業）

15:50～16:00 休憩

16:00 一般講演4

- 16:00～16:15 介護機器設計のための接触圧力及び表面温度の評価
 - ○椋代弘，辻善夫（岡山県工業技術センター）
- 16:15～16:30 ソリ付き4輪型歩行器（楽式歩行器）の開発と問題点
 - ○滝沢茂男（リハビリエイド），木村哲彦（日本医科大学），木島英夫（木島整形外科医院），牧田光代（昭島市高齢者在宅サービスセンター愛全園），遠藤敏（慶応義塾大学病院），滝沢恭子（老人保健施設湘南の丘）
- 16:30～16:45 C A E を用いた足関節装具の最適化
 - ○大久保富彦，田中貴浩，須賀武彦（東京都立産業技術研究所）
- 16:45～17:00 ニューラルネットを利用した生体信号識別と義手制御への応用
 - ○福田修（機械技術研究所），辻敏夫（広島大学）

17:00 閉会挨拶

17:30～19:30 交流会

☆豊富な展示が今回の目玉のひとつ

●特別講演に関連するモジュラー型車椅子

- 日本化薬株式会社
 - グランマ2 2（自走式）、グランマ1 6（介助式）
- (株)パーカーコーポレーション
 - スペリアJ、REAコンフォート車いす
- (株)ファスニング2 1
 - モジュラー車いす楽歩
- 松下電工株式会社
 - N A I Sモジュラー車いす

●衣服関連のポスター発表・展示

- 東京都立産業技術研究所
 - 世界初の齢者女子衣料開発用台 人台 5 体
- 埼玉県工業技術センター・北部研究所
 - シニアアパレル 4タイプ7種7着
- 静岡県浜松工業技術センター・静岡県デザインセンター
 - 下肢装具装着者の生活補助具および障害者のための衣料 2脚、2足、6着
 - 片麻痺障害者のための更衣用補助椅子、履物着脱用補助椅子
 - 靴（女性用一次試作、男性用一次試作）
 - 片麻痺障害者のための男女カジュアルウェア
 - 雨天用衣料 4種
 - *雨天用衣料 車椅子障害者用一体型（コバルト）
 - *片麻痺障害者用一体型（ターコイズ）
 - *男性片麻痺障害者用セパレート型（ネイビー）
 - *女性片麻痺障害者用セパレート型（オレンジ） 一着片麻痺用
- 鳥取県産業技術センター
 - リハビリ用衣服 車いす用（女性用、男性用） 2着
- 石川県工業試験場
 - 高齢者向け快適性衣服 2着
- 群馬県繊維工業試験場
 - 介護用衣料 5種5着
- 兵庫県立工業技術センター・繊維工業指導所
 - 新しい観点からの福祉衣料繊維素材 4種5点
 - 片滑りフロック：一方向にだけ滑りやすく、その他には、すべり止め効果がある。
 - 全面フロック加工：生地全体にフロック加工を施したもの。全方向に滑り止め効果がある。
 - 柄フロック（2点）：織物の上に柄を乗せた。ファッション用途に開発された商品である。
 - 再帰反射プリント：通常は、目立たないがライトがあたるとピカツト光が反射
- 高浦義子
 - 重度障害児の為の既製服 - 寝たきりの子供たちに着脱させやすい子供服 10着
- 株式会社ワコール
 - 障害者に着脱しやすいブラジャー 2種類
 - (東京都福祉機器総合センター、岩波さんの研究成果とつながって開発された製品)
 - 着脱エイドブラ：前開きタイプ、ホックなしタイプ
- 栃木県繊維工業試験場
 - 抗菌性複合糸を用いた介護用パジャマの試作
 - 衣服内の温度が判るような簡易センシング機能を付与した高齢者用パジャマの試作
- 篠部乃里子
 - 中村さんの衣服 - 機能性や身体の特徴をデザインに生かす -

医療福祉技術分科会

「第2回福祉技術シンポジウム」開催報告

2000年9月13日(水)9:30から、東京都北区「北とびあ」つつじホールにおいて、「第2回福祉技術シンポジウム」が、240名の参加者を得て、盛況のうちに開催されました。前日までの雨はなんとか止んでくれましたが、大雨の影響で、残念ながら参加できなかった方が多数いらっしゃったことと思います。次回にはぜひ参加されるように願っています。

開会式は、主催団体を代表して技振協の林専務理事の開会挨拶、工業技術連絡会議の事務局を担当していただいている工科院地域技術課の稲垣課長の、工業技術連絡会議の紹介も兼ねた来賓挨拶、福祉技術部会長の機技研甲田首席研究官の部会紹介がありました。その中では、一様に、昨年10月に発足した福祉技術部会の発展が指摘され、また今後の活動への期待が寄せられました。また、部会長からは、新しく開設された部会ホームページが詳細に紹介されました。

講演は、15人の発表者から、日頃の研究開発、地域での研究会、産学官連携の取組など、実体験から生まれた迫力ある講演が続きました。質問も活発に出され、いずれも時間をオーバーする状況でした。

昼の時間帯のポスター発表・展示は、パネル前で熱心な質疑が絶えることなく行われました。今回の目玉となった展示は、特別講演に関連したモジュラー型車いすと身障者用の衣服などで、壁一面に衣服が展示された光景は、まるでファッションショーの楽屋(見たことはありませんが)のようでした。車いすも試乗する方や説明者に熱心に質問される方が16:00の展示終了まで見られました。

木之瀬先生の特別講演では、介護保険の福祉用具レンタルの課題について、海外の事情も紹介されながら、利用者に柔軟に合わせられる福祉用具の重要性が強く指摘されました。そのためには、開発者、ケアマネージャー、福祉用具プランナーが一体となったシステム作りの課題が示されました。部会の今後の活動のひとつの方向を示す内容としてとても貴重なお話でした。

シンポジウムの最後に、共催団体の東京都北区から、地域振興部の伊藤部長から閉会の挨拶がありました。その中で、当日天皇陛下ご夫妻が北区特養ホーム「あじさい荘」をご視察されたことが報告されました。

交流会には約100名の方が参加し、部会長の挨拶に続き、後援団体の東京都を代表して、東京都立産業技術研究所の村田所長の代理、番場製品技術部長の乾杯で会が始まりました。文字通り、会場のあちこちで名刺交換が行われ、人的ネットワークの構築が図られました。途中木之瀬先生に続いて、団体、大学、企業の代表から、元気あふれるスピーチが続きました。交流会は、副部会長の口ノ町生命研人間環境システム部長の中締めて閉会しました。

来年も、国際福祉機器展に合わせて開催される予定とのアナウンスもありました。

参加者の内訳は次の通りです。

通産省・国研 20
公設試、自治体 87
企業 75
団体 10
医療・福祉機関 16
大 学 24
そ の 他 8

写真集

開会挨拶



来賓挨拶



部会長挨拶



特別講演



一般講演



ポスター発表・展示



第2回福祉技術シンポジウム展示 2000.9.13



閉会挨拶



交流会





医療福祉技術分科会

「第2回福祉技術シンポジウム」開催に当たって

工業技術連絡会議福祉技術部会長 甲田壽男
(工業技術院機械技術研究所首席研究官)

1年間で68万人もの高齢者が増加するという世界でもまれな速度で高齢化が進む日本において、今年度のWHOの報告によれば健康寿命も74.5歳と世界一になっております。このような高齢化社会において国家産業技術戦略の目標の一つに安心安全で質の高い生活の実現が謳われ、福祉技術の研究開発への期待も大きいものがあります。

このような背景において、昨年10月末に、通産省傘下の研究所と全国の公設試験研究機関との連携を高めるために設けられた工業技術連絡会議に福祉技術部会が208機関536名の参加をもって設立されました。福祉技術が単なる研究の対象ばかりではなく広く現場を含めた多方面にわたることを鑑み、同時に工業技術連絡会議の運営改善の試みの一つとして、福祉技術部会では国立研や公設試等の推薦により企業・大学・個人の入会も可能としており、この部会の大きな特色になっています。

昨年度の設立総会直後に開催されました第1回福祉技術シンポジウムでは、国立研通産省関係46名、公設試関係80名、大学関係7名、企業一般45名の178名の参加者があり、高齢者障害者向けの製品開発や解析評価技術など16件の事例発表が行われ、熱心な意見交換が行われました。これらの活動に関連して日本経済新聞（H11.11.29付）が夕刊の一面に報道し、また日刊工業新聞（H12.4.4付）でも高齢化社会のモノづくりの連載記事中で取り上げていただいたことは、福祉技術部会への期待の大きさを感じさせるものであります。

今年4月から介護保険制度が施行され、福祉現場や福祉行政からの福祉技術への期待の一層の高まりが感じられ、高度情報化技術を取り込んだ福祉機器の研究開発の展開も見られたことから、第2回福祉技術シンポジウムを開催することになりました。今回は福祉技術部会員の要望もあり、国際福祉機器展の開催時期に合わせ、交通の便の良い東京都北区の「北とぴあ」で開催する運びとなりました。また、財団法人日本産業技術振興協会の産学官地域技術交流会事業として開催することとなりました。ここに同協会を始め御尽力いただきました東京都立産業技術研究所、共催の東京都北区、また講演していただきました東京都の関係各位に心から感謝の意を表します。